HIROKI YOSHIDA
OFFICIAL RELEASE

Race	2016 AUTOBACS SUPER GT Round5 FUJI GT 300km RACE
Date	2016.08.06-07
Race Track	FUJI SPEEDWAY
Team	Gulf Racing with PACIFIC
Car	GULF NAC PORSCHE 911

PACIFIC RACING TEAM

予選 25 位からセッティング変更で決勝は上位を狙う。

2016.08.06 QUALIFYING（公式予選 25 位）　WEATHER : DRY

SUPER GT シリーズ第 5 戦が、8 月 6~7 日に富士スピードウェイにおいて開催。5 月の第 2 戦以来の開催となる富士スピードウェイ。世界屈指のストレートを持つコースだが、後半の上り区間は非常にテクニカルなセクションで、パワーに勝る FIA GT3 車両にとっては有利なコース。今回ポルシェ 911 GT3R は性能調整を受け 15kg 軽量化され活躍が期待された。また前回は 500km レースで 2 回のピットインが必要だったが、今回は通常の 300km レースとして開催となる。第 2 戦ではアクシデントのために早い時間にリタイアを喫したこともあり、今回は前回に続き何とか完走を果たしたいところ。

予選日朝の公式練習では、参加 29 台中 28 台がコースインし阪口がセッティングを確認するも、思うような走りができず 1 分 40 秒 119 で 23 位にとどまった。チームは大幅なセッティング変更を行い公式予選に備えた。迎えた Q1、気温 33℃、路面温度 48℃という猛暑の中、阪口は 1 分 39 秒 960 へタイムアップするも順位は逆に下がり 25 位となりこれで予選を終了した。

予選終了後にチームはさらにセッティングを変更。決勝日朝のフリー走行では 20 番手となるタイムをマークし、決勝レースでの追い上げに期待がかかった。

SPONSORS

PARTNERS

HIROKI YOSHIDA
OFFICIAL RELEASE

PACIFIC RACING TEAM

序盤に追突を受けマシンストップも粘りの走りで連続完走。

2016.08.07 RACE（決勝 21 位） **WEATHER : DRY**

14 時 42 分、晴れ、気温 33℃、路面温度 49℃というコンディションで決勝レースがスタート。スタートを担当した阪口はオープニングラップで 1 台を抜き 24 位へ。さらにトラブルを抱えた車両が後退すると同時に順位を上げ、15 周目には 22 位。さらにひとつずつ順位を上げようとしていた矢先、16 周目の 1 コーナーで後続に追突され弾き飛ばされる形でコースアウト。エンジンもストップしてしまった。追突してきた車両はコース上にボンネットを落としてしまったため、この回収のためにセーフティカー (SC) が導入されることとなった。

再始動のためのセルモーターが動けなくなってしまった阪口だったが、下り坂を利用して押し掛けの形でエンジンを再始動。これでコースへ戻ったが、既にクラストップからは周回遅れになってしまった。幸いアクシデントのダメージは少なく、阪口はマシンのチェックをしながら隊列についてレース復帰。しかし追突の影響でカウルがタイヤに干渉しタイヤが削れてしまったこともあり、SC が隊列から離れレースが再スタートすると、混んでいるタイミングを避けて次の周でピットインして吉田に交代した。ここで給油、そしてレースでの初めてのタイヤ交換を行ったが、練習どおりそつない作業を見せ吉田がコースへ復帰した。

折り返し点より早めのピットインとなったため、予定より長いスティントを担当することになった吉田だが、前を走行する車両は既に見える位置にはおらず、また周回遅れのために走行ラインを譲るよう指示する青旗を振られながらも、自分のラップタイムを守りタイヤを労わりながらの周回を続けた。ドライバー交代後は 25 位を走行していた吉田は中盤の 37 周目には 21 位へ順位を上げると、そのポジションを守って 59 周でチェッカー。2 戦連続で完走を果たした。今回取れたデータを生かして、次の鈴鹿 1000km では初入賞を目指すこととなる。

■国江仙嗣監督

「悔しいアクシデントのために、チームポイントは 3 点ではなく 1 点だけになってしまい取り損ねた感はありますが、苦しい展開でも完走できました。週末を通していいセッティングがみつかりました。メカニックも頑張って準備をしてくれました。ドライバーも暑さが厳しい中冷静に仕事をしてくれました。追突されてアースが外れセルが回らなかったのですが、経験豊富な阪口が好判断でピットに戻ってきてくれました。次は開幕から上位入賞を狙っていた鈴鹿。常に前向きに進んでいきたいと思います」

■阪口良平選手

「スタートでひとつポジションを上げて一台ずつ順位を上げていく走りをするということで、終始周囲の様子を見てタイヤを労わりながら走っていました。後ろを走っていた車両との距離もあったはずなのですが、1 コーナーのクリップについたら右リヤにドンとぶつけられてしまいました。何とかエンジンを再スタートできましたが、追突の影響のために早めのピットインをすることになり、非常に悔しいです。次の鈴鹿 1000km は自分を育ててくれたレースですし自分が育った鈴鹿ですから、荒れた展開でも順位を上げて気持ちの良いレースにしたいです」

■吉田広樹選手

「交代した時は既にラップ遅れでしたし、青旗を振られっぱなしという我慢のレースになりました。同じタイヤを履いた車両がタイヤバーストしていましたから、用心しながらの走りであまりプッシュできなかったのは残念です。ただこれまで決勝レースでタイヤ交換できていなかった学生メカニックたちが、緊張しながらもそつなく確実に作業をしてくれましたし、今回チーム全体も進歩したと思います。全然満足できるような結果ではありませんが、次の鈴鹿ではミスなく確実に走ることで結果を残せればと思います」

吉田 広樹

SPONSORS

PARTNERS